

縄文の血

首藤 静夫

NHKの人気番組「ブラタモリ」で糸魚川市周辺が紹介されていた。この地域の河や海岸で見つかる翡翠は、古代の日本列島に広く伝わったそうだ。

青森市郊外の三内丸山遺跡は縄文遺跡として有名だが、以前ここで糸魚川産の立派な翡翠を見て驚いた。粗末な舟で日本海をはるばる運んだであろう縄文人に驚嘆したものだ。と同時に見返り品は何だったのかと思った。

ところがブラタモリの現地解説では、これは交易でなく贈与だと言う。その証拠に、見返りの品が糸魚川の遺跡から見つからないのだと。贈与だなんてと思い縄文学の本をめくったら、縄文人は贈与文化と処々に書いてある。もちろん貰うだけでなく、別の形でお返しはあったそうだが、その文化・心性は交易とは異なるそうだ。

縄文人はその最盛期でも列島全体で三十万人以内と試算されている。彼らのルーツは、大型動物を追って列島に最初にたどり着いた旧石器人と、その後北方から来た古モンゴロイドの二つである。気が遠くなるほど昔に北から徐々に南下して各地に落ち着いた人々は、私たちが親戚づきあいする様に、贈り物の交換や大事な祭祀への招待などで親睦していたのであろうか。

瀬川拓郎著『アイヌと縄文』によると、本土の人より縄文の血が濃いアイヌの人々は、仲間内では贈与の文化だったと言う。しかし弥生化した内地の人とのつき合いは交易だったそうだ。弥生化といっても縄文人に外来の血が少し混じった程度ゆえ、元々は共通の祖先であろう。それにも関わらず内と外を使い分け、遠方の親戚には贈与の品を届け、近くの他人とはビジネスライクの取引をした。分かり易い話だ。

ところで、日本人は大なり小なり縄文の血を引いている。その血が濃いか薄いかを調べるのは簡単だ。自分の耳垢が湿っぽい人は縄文的、乾いている人は弥生的だそうだ。人類学で言われている話だそうだが真偽の程は知らない。それより贈り物をするのが好きかどうかの方が分かり易いかも。